



学校だより 9月号

か さ ま

令和4年8月29日

No.496 横浜市立笠間小学校

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kasama/>

【学校教育目標】かみがやくひとみ さわやかえがお まごころいっぱい かさまの子

## 夏の思い出

～わたしのまち・わたしのふるさと～

校長 中里 純子

夏休みが終わり、学校に元気な子どもたちの声が戻ってきました。登校してきた子どもたちは、久しぶりに友達や先生と会え、とびきりの笑顔でした。これも、ご家庭や地域で子どもたちを温かく見守ってくださった皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

さて、この夏休み中に、私は地域の盆踊りに参加させていただきました。会場に近づくとつれ大きくなる太鼓の音、浴衣を着た子どもたちの姿、自然と気持ちが浮き浮きとして足どりも早くなります。浴衣を着たきょうだいが「校長先生！」と走り寄ってきました。「浴衣がとても素敵ね。」と私が褒めると「ありがとうございます。新しいのを買ってもらって、おうちの人に着せてもらいました。」と嬉しそうに答えていました。3年ぶりの盆踊り、きっと以前着ていた浴衣も小さくなっていたのでしょうか。会場では大勢の子どもたちが、ヨーヨーなどのおもちゃを手に、嬉々とした表情ではしゃいでいます。



私は、小学校一年生から三年生まで、東京下町の王子というところで過ごしました。夏になると、毎週土日に地域のあちらこちらで盆踊り大会が行われました。浴衣を着せてもらい、友達と手をつないで、夕顔が白く咲く道を太鼓の音がする方へ歩いていきます。母親も後ろからついてきてくれたのですが、暗い道が何となく不安で、提灯の灯が見えてくるとホッとしたのを覚えています。出店で「ヨーヨー釣り」をしたり「綿あめ」を買ってもらったりするのが楽しみでした。「炭坑節」や「東京音頭」などを見よう見まねで踊ったものです。祭りの終わりの時間が近づくころにあがる簡単な打ち上げ花火を見た後、満足して家に帰るのです。今から思えば、こうしたお祭りのために、地域の多くの方々が関わってくださっていたに違いありません。その後の父の転勤で、王子には三年間しか住んでいなかったのですが、私にとって忘れられない大切なまち・ふるさとです。そして、この町が私の一部をつくっているといっても過言ではないのかもしれない。そういえば、大人になった今でも私は、祭りや花火大会が大好きで、太鼓の音や花火が打ち上がる音を聞くと、じっとしていられないタイプです。

笠間地区でもこの夏、盆踊り大会、デイキャンプ、映写会、ラジオ体操など自治会や地域の方が、子どもたちのために多くのイベントを計画してくださいました。しかし、休み直前になり新型コロナウイルス感染の第7波が来たことで拡大防止のため、やむなく中止となったイベントがほとんどでした。「来年こそは...!!」と大人も子どもも多くの方が地域行事の再開を待ち望んでいることと思います。感染症の拡大が一日も早く収まることを願うばかりです。

2学期は遠足や宿泊体験学習、ドレミファコンサートなど、子どもたちが楽しみにしている行事がたくさん予定されています。引き続き、子どもたちの安全を第一にしたうえで「出来ることは何か」「どのようにしたら出来るか」を考え、教職員一同、子どもたちのさらなる成長のために力を尽くしてまいります。今後とも、本校の教育活動へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。